

あきやま子どもクリニックニュース2020年4月号

最近の流行っている病気

インフルエンザはほとんどみられなくなりました。嘔吐・下痢の急性胃腸炎、咳がひどいマイコプラズマ感染症が目立ってきました。感染症として、水痘、突発性発疹、溶連菌感染症があります。

訪問看護ステーション

日々のニュースを見ていると、現在、東京都ではコロナ感染者が増加傾向にあります。感染しても、症状は軽いことがあると言われていますが、高齢者や既往歴がある人たちにとっては、感染は大きなリスクとなります。そして、アルコールやガーゼなどが、なかなか手に入りづらくなっています。在宅で生活する子ども達にとっては、日頃から使用するものが手に入らない事は、あつてはならない事です。いつまで続くのかも不安要素です。感染予防に注意しながら、早く終息することを願います。

(文責 梅田可愛)



Mama&Baby(産後ケア)

「機嫌はいいのですが、鼻水が出ているんです」「顔にボツボツが出来てしまっで・・・」などと相談をよく受けます。皆さん「小児科に連れて行ったほうが良いのかしら。こんなことで・・・と言われたらどうしよう。」と思われるようです。いつも赤ちゃんに接しているのはお母さんです。お母さんが「あれ？」と思ったら迷わず受診していいと思います。それで何もなければ安心できるし、これくらいなら様子を見て大丈夫、という判断の目安ができます。初めての育児、わからないことだらけが当たり前です。安心して相談できるかかりつけ医があると安心ですね。

(文責 酒井敏恵)



病児保育室便り

病児保育室を利用するお子さんは、毎日通うのではなく、多くても1か月に2、3回、大きくなってくると1年に1回、もしくは2、3年利用がないことがほとんどです。その中でも前回何をして過ごしたか、病児の部屋には何があるのかを覚えていられるお子さんがいます。部屋に入り、真っ先に遊びたいおもちゃがある棚の前に行き、出して遊ぶお子さんや、絵本の棚から「何がいいかな？」ではなく「○○どこかな。」と以前見た絵本を探しているお子さんもいます。その姿を見て、お子さんたちの記憶力のすごさに驚くとともに、おもちゃや絵本の場所を変えないようにしなければと思いました。お子さんにとって環境を変えないことも安心できる要素の一つだと感じました。

(文責 千葉美香)



日本小児科学会から

Q 子どもの症状が新型コロナウイルスによるものかもしれないと思ったら早めに医療機関を受診した方がいいですか？

A :現時点(2020年3月21日)において、国内で新型コロナウイルスに感染している小児は徐々に増えつつありますが、依然として他のウイルスによるものの感染の可能性が高いと考えられます。

実際には、新型コロナウイルス感染症を疑って一般の医療機関や休日夜間急病診療所等を受診しても、診断を確定するための検査はできません。むしろ受診によって新型コロナウイルスの感染の機会を増やす危険性があることを念頭におく必要があります。

さらには、新型コロナウイルス感染の軽症者に対する特異的な治療法はありません。今の段階では、呼吸数が多い、肩で息をする、呼吸が苦しい、唇や顔の色が悪いなど、肺炎を疑う症状があり、入院加療が必要と考えられる場合を除いては、新型コロナウイルス感染症を心配して医療機関を受診することはお勧めできません。

なお、厚生労働省からの新型コロナウイルス感染症を疑う基準では、「37.5℃以上4日」とありますが、この基準では、小児の「風邪」の多くが当てはまってしまう。

小児では、原因不明の発熱が続く、呼吸が苦しい、経口摂取ができない、ぐったりしているなどの様子が見られるときは、速やかに医療機関を受診してください。ただし、小児であっても濃厚接触者や健康観察対象者である場合は、まず地域の帰国者・接触者相談センターにご相談ください。

東京都新型コロナウイルスにかかる電話相談

03-5320-4509

厚生労働省電話相談窓口

03-3595-2285

今月の代診と休診



8日(水)	午後診療	宗像先生
10日(金)	午後診療	宗像先生
21日(火)	午後診療	宗像先生
22日(水)	午後診療	宗像先生

木曜日早朝・午前診療は濱野先生です。

4月29～5月6日まで休みます。